

賀正 比佐昌平 林平馬 木村清治

# 警城公論

毎月(二回)十五日、三十日発行  
編集兼発行人 山田政好  
印刷所 加納活版所  
発行所 警城公論社  
電話四〇八番  
廣告料 五號字詰一行五十錢  
場所指定十錢増  
定価 一冊十錢 一年貳圓四十錢

## 謹賀新年

### 「訓練の政治家」

### 濱口雄幸氏の壯烈なる 心事に敬意を表す

それは大正三年と記憶する。記者がまだ學生時代であつた。熊本の生んだ熱血政治家、藏原惟郎氏の立候補政見發表演説會が、神田青年會館にあつた、その壇上、當時大藏次官であつた濱口雄幸氏は、藏原氏のため極めて明快なる口調を以つて簡潔なる推薦演説をされた事がある。

是れ濱口氏を見る初回である。以來、身世匆忙として日月は流れて、十數年ぶりで昨春三月上野精養軒に於ける、全民政黨懇親大會の演壇上、白髮の老政治家となつた、濱口總裁を凝視した時には、何ともいへぬ悲劇的感情が、こみあげてやまなかつた。

田中氏にせよ、又濱口氏にせよ、苟しくも大政黨の首領として、多數の黨員を統率して、黨内外の事に當るからには、人知れぬ苦心、察するに余りがあることだらう！

とかく無責任なる第三者は、勝手放題な漫言妄語をなして、痛快がつて居るが、さて一黨の首領として又一國の總理としての重責ある立場にあるものゝ、

内面的苦痛は、如何程か、その髪を白くし、その健康を害ね、早死短命に終る事だらう！

記者は不幸にして、公人としての田中氏に對して徹底反對の立場にあるものではあるが、一人田中氏に對しては何等の恩怨はない。むしろ愛好すべきドッキホーラーだ。

唯々既に投げ出すべき内閣を、四圍の事情より無理をして持ち耐ゆる瘦我慢を、その是れをなす内面的苦悶を想察しては、むしろ政友會總裁としての田中氏に、滿腔の同情を表してやまぬものである。

さばれ日本に於ける現代の老政治家中尾崎行雄氏ほど警世の熱言を吐露する人はなく、又理路整然、論旨透徹、明快簡潔なる理論闘争の雄辯者として濱口雄幸氏に雁行する人はない。

記者は、地方に在往して、直接名士大家の演説講演に接する機会少なきが故に、努めて新聞雜誌其他著述などにより、間接に名論卓説に接する。

殊に最近低級愚劣なる政論をさなれし耳にも、濱口氏の極近數回に亘る、所謂「傷つけらるライオンの叫び」は、黨員の獲得には血眼になつて狂反對黨の人々までも、熱聴せねばならぬ愛國的大獅子吼と確信する。

人間は悲劇に直面して始めて眞劍本氣になる。さきに民政黨内部は大動搖を來して、賣女的政治家床次とその一醜類が相率いて日本憲政反對の徒黨明黨の私生兒的第三黨を陰作した。

床次の出處進退は天下の冷罵嘲笑の標的となり、大衆指彈足撃の金のとはなつた。

### 人間は悲劇に直面して始めて眞劍本氣になる

さきに民政黨内部は大動搖を來して、賣女的政治家床次とその一醜類が相率いて日本憲政反對の徒黨明黨の私生兒的第三黨を陰作した。

床次の出處進退は天下の冷罵嘲笑の標的となり、大衆指彈足撃の金のとはなつた。

濱口氏は盟友に賣られたのだ、惡黨ユダは銀貨數枚にて、聖人キリストを賣つて、十字架の上に送つた。惡徳政治家、床次は盟友濱口氏を賣つて、而も床次自身、國民審判の十字架にかゝらんごしてゐる。床次の心事の卑劣、陰險、邪惡、奸譎なる、われら純情なる青年の風上にもたけけないシロモノだ。

人間濱口雄幸氏とては、血涙はふり落して、盟友の裏切りを痛憤長恨せられた事であらう。

頭數第一とする現代の政黨に於ては、たとひ有象無象の寄り合ひ世帯であつても、頭數の減少、黨員の脱黨する事は、政黨總裁にまつての、最大苦痛であらねばならぬ。

さればにや、故原敬氏の如きは黨員の獲得には血眼になつて狂奔したではないか……濱口雄幸氏最近の決意と覺悟は、むしろ悲壯なるものがある。

演説中の言々句々、むしろ胸底深く秘めたる幽憤、一時に爆發し來つて、あの血火言を吐き出すの觀がある。

何人いへども、日本の現實を深觀し、帝國の將來を先見する「愛國的感情」横溢するものは、國難脚下に來りつゝあるを痛感するであらう。例へば對支問題、財政問題、生活問題、思想問題、官民直面衝突等々の重大なる諸問題について深省一番せられよ。

吾れ人共に多事多難なる國運民命に對して、深憂せざるを得ないではないか。

濱口氏は深甚なる考慮を、是れらの重大問題に拂はれ、政府當路に對して一大警告を與ふると共に、國民大衆に批判を求めた。立憲政治家の態度は、氏の如く公明正大たるべしだ。

濱口氏は、今や慘憺たる訓練を受けつゝある、大成したる一國宰相の大器完成のために!!! 而して記者は、その雨下する受難と試練に對して、勇敢に血戰する濱口氏の壯烈なる心事と、果敢なる勇氣に對して滿腔の敬意を表し、絶對の信頼を捧ぐるものである。

更に繰り返していふ、意を捧げてやまぬものだ。

### 新らしく生きやう

「年頭斷感」

「舊き大地を深く掘らば新らしく泉湧き出でん」  
哲人ニイチエは  
かう叫んで狂死した。

「敢えて幕下の人に問はん汝再び生れ來つて地上生活を營むや??」  
幕下人答えて曰はく  
「否かよ!!」

「再び地上生活をすればどて何等の意義なし、所詮同一の事を繰り返すに過ぎず」  
厭世家シヨペンハワーは  
この人生觀に徹しに。

「逝くものは斯くの如きか書卷を捨てて」  
と聖人孔子は大河のほとりにて自然と人生を考へた。

「莫はくば梅花と俱に新ならん」  
と詩人は新生の心意氣を梅花に寄せた。

更に日本の女歌人は  
梅の花  
瑪瑙のつばを  
つらねたり  
君と盛りまし  
若き涙を

と優に床しくも歌ひ出でた。

如上の聖言哲語詩句は、深觀内省すべきではあるまいか!?

時間と空間の牢獄より脱して新生の一途を果敢に前進しやう

對しては七千萬同胞の名に於て滿腔の敬意を捧げてやまぬものだ。

### 賀正

- 山崎與三郎
- 安島重三郎
- 諸橋久太郎
- 高岡唯一郎
- 小野晋平
- 江口忠一
- 小田吉治
- 萩原申八
- 武田精一
- 比佐源造
- 加藤丈夫
- 四家又一
- 松本徳一

あのひとは

萩原申八君

この数年來、不景氣の怒濤は無遠慮に、郷土の經濟岸壁に逆捲き、全石城人の生活堤防を破壊せんす脅威を逞しうしてやまぬ。

管見

人口は、年々歳々百萬づつ増加する。そして内外の國債は五十七億圓ある。

弾撃

行は、東都發行新聞紙上に連續掲載され、われら純眞なる地方在郷の青年者をして、天を仰いで「噫、已みぬるかな!!」と長大息させる。

永山勇吉君

大藏省の役人—官僚生活を一擲して、酒店の帳場に! 是れ余が親敬やまぬ、永山勇吉君の生活態度の急變だ。

謹賀新年

Table listing names and titles of individuals and organizations, including 飯野 村長, 伊藤 淺之助, 河野 嘉藏, 井上 貞治郎, 赤津 庄兵衛, etc.

賀正 山崎合名會社 釜屋商店



# 謹賀新年

石城郡銀行組合	平材木商業組合	平藝妓屋組合	平建具指物業組合	平料理屋組合	平三業保健組合	平西洋料理業組合	平旅館組合	平町信用組合	四倉銀行會社組合	湯本藝妓屋組合	湯本溫泉旅館料理屋組合	小名濱三業保健組合	小名濱漁業組合	平町公立私立學校長	懇話會	平町會議員一同	磐城共濟病院 院長 難波 忠睦 主事 賀澤 寶治 會計 鈴木 雄
---------	---------	--------	----------	--------	---------	----------	-------	--------	----------	---------	-------------	-----------	---------	-----------	-----	---------	---

內郷村白水 不動澤炭礦 鑛業所	浪花炭礦 佐藤留藏	杉山炭礦 杉山今朝吉 內郷村白水	坂田炭礦 坂田順治	岡田炭礦 岡田力松	(高久村) 鈴木喜太郎 村長 助 本間 武 收 箱崎 豊 村 會議員 鈴木辯之助 鈴木榮吉郎 有 矢吹酒造店 矢吹清貞 鈴木酒造店 鈴木平司 大谷酒造店 大谷喜作
-----------------------	--------------	------------------------	--------------	--------------	--

豐間村長 志賀兼吉 收 鈴木清利 平看護婦會 清野キヨ	平五丁目 産婆 猪狩かく 電話 八三七番	七十七銀行 平支店 山田勇太郎	農工銀行 平支店 安部六三郎	河田鐵工場 河田梅吉	山野邊藥局 山野邊東次郎	松田卯次朗	加納外一
---	----------------------------	-----------------------	----------------------	---------------	-----------------	-------	------

平町田町 赤心堂病院	平町田町 市原病院	平町一丁目 藤 寅	野崎自動車會商 野崎喜八郎	平町三丁目 高木青果店	公周旋業 滑川敏之輔 平町新田町 電話七〇三	平町鎌田町 佐藤岩次郎 草野五三之助	平町田町 島田 三	平白銀町 高橋龜松
---------------	--------------	--------------	------------------	----------------	------------------------------	--------------------------	--------------	--------------

平町二丁目 (電話三番) 西村屋藥舖	醫藥藥品 平町四丁目 (電話四〇番) 關 內藥舖 有工業藥品 洋名賣藥 染料酒罐詰 塗料 振替仙臺六五一六番 電話七七一	平町四丁目 (電話二三四番) マルトモ 柴田書店	平町四丁目 (電話一四〇番) 鶴屋商店	平町田町 (電話一三五番) 高久病院 院長 醫學士 高久 忠	平町四丁目 伊勢屋	平町研町 (電話二五七番) 吉村製綿店	平町四丁目 (電話一四四番) 小野藥店	平町三丁目 (電話三八番) 三井吳服店	平町四丁目 (電話一一八番) 磐城工業商會 主 中村 佐治 助	平町大工町 多田井質店
-----------------------	---	-----------------------------	------------------------	--------------------------------------	--------------	------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------------------	----------------

賀正 此佐昌平 林平馬 木村清治